

仙台のフリースクール 中1いじめ自殺に衝撃

学びの場 学校以外にも



石川さん(右)の講義を聴く中高校生。人間関係の築き方など学ぶ＝仙台市太白区のフリースクールだといと

「嬉しいことだ」。太白区のフリースクールだといふ代表石川昌征さん(47)は男子生徒を悼んだ。2004年開設のスクールに中高生約50人が在籍する。半数以上が学校でいじめを受け

た経験を持つ。石川さんは「まずは心身の安全を確保するのが重要」といじめ被害者の子どもが学習環境を変える意義を語る。スクールで学び続けて進学する子どもが多

い一方、学校への復帰を望む場合には学校と連携して道筋を付けたケースもあるといふ。市民有志が書齋区で月2回開く仙台自主夜間中学で

仙台市立1年の男子生徒11当時(12)が昨春秋、いじめを苦に自殺した問題は、不登校の生徒らが通う市内の民間フリースクールや自主夜間中学にも衝撃とともに受け止められた。いじめなどを受けて「学校に居場所がない」と感じる子どもが追い詰められないよう、関係者は「学びの場には多様な選択肢がある」と呼び掛けている。

「安全確保が重要」

多様な選択肢呼び掛け

は、戦争などで義務教育を修できなかった高齢者と中学生が机を並べている。代表の中沢八栄さん(76)は「異なる世代の考え方が刺激になり、励みになっている。子どもを育てる目は学校だけでなく、地域に複数あつていい」と話す。

7月には新たなフリースクール教室が宮城野区にでき、中学生3人が学ぶ。運営するNPO法人アースク(宮城野区)の大橋雄介代表理事(55)は一市も不登校対策に力を入れているが、自分たちだけで抱え込もう

とする風潮が根強い」と指摘する。

国会ではフリースクールなどを義務教育に組み込む「多様な学び保障法案」の提出を超党派で目指す動きがある。大橋さんは「学びの場を選ぶ子どもの権利が担保され、保護者や学校の意識が変わるきっかけになってほしい」と法案成立に期待する。

市教委などによると、市内にはフリースクールからカ所ある。中学生の場合は在籍校の校長の判断で出席日数に数えられる。高校生

では、通制制高校と連携して卒業資格が取得できるスクールもある。